

平成30年度 事業報告書

大慈ひょうご幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ①安全を第一に考え、子どもが安心して元気に活動できるよう工夫し努力した。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努めた。

2. 《平成30年度報告》

- ①教育・保育理念をよく理解し、丁寧に保育を行った。
- ②子どもや保護者、地域とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わった。
 - 職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を早く覚えていただき、親近感を持っていただけようにした。
 - 地域の施設・学校・関係者に園だよりや行事の案内等を配布するとともに、積極的に働きかけ、関係を深めていくようにした。
 - 要支援家庭に対して、子どもの様子や家庭の状況など話し合う場を持つようにし、変化を見逃さないようにした。要支援家庭の報告を毎月、区の保健部に送り情報の共有をした。
- ③資質向上のため、職場内、職場外研修を行い全職員で共通理解をする
 - キャリアアップ研修をはじめ、区内研修、公私合同研修等の職場外研修は研修報告を行い園全体での共通理解に努めた。大慈4園合同での「子どもの主体性を伸ばす」研修（6月28日、8月28日）、「保護者対応」研修（11月23日）には全員が参加して学ぶことができた。
- ④人材確保・定着に努めた。
- ⑤行事に地域の方をご招待して、地域交流を深め、地域に根付いた園であり続けた。
 - 地域の空き地をお借りして、季節の花を育てることにした。
- ⑥リスクマネジメント会議、園全体の安全チェックを月1回行い、安全を確保した。
 - 各園の会議だけではなく、チーム会議で話し合い、全園で情報を共有し安全を確保した。

3. 《修繕・購入報告》

- ・パーテーション改修工事
- ・災害復旧工事 … 雨漏り、電気、インターフォンの修繕工事

4. 《地域貢献事業報告》

- ・ 6月 お楽しみ会（人形劇） 体験保育
- ・ 7月 夏まつり
- ・ 8月 プール開放
- ・ 10月 お楽しみ会（ミュージカル）
- ・ 11月 焼いもパーティー
- ・ 毎週水、木曜日 園庭開放
- ・ 東出町・西出町の空き地で花を育てた「お花工場」と命名

5. 《行事報告》

※年間行事

月	行 事
4月	入園式
5月	春の遠足 (いちご狩り)
6月	食育フェア 防災フェア 交通安全教室 歯科教育指導
7月	全園児プール開き プラネタリウム (5歳児) 七夕まつり 夏まつり
8月	プール参観 小学校プール お年寄りとの交流会 ワークキャンプ受け入れ
9月	お泊り保育
10月	運動会 秋の遠足 (全園児) 兵庫区ふれあい会 お楽しみ会
11月	焼きいも大会 参観ウィーク 作品展 兵庫区なかよし会
12月	ドレミコンサート クリスマス会
1月	おもちつき そりあそび遠足
2月	豆まき よいこの集い (5歳児) 生活発表会 防犯教室
3月	おひな祭り お別れ遠足 (全園児) お別れ会 卒園式

※月間行事 (月1回)

お誕生日会 発育測定 防災訓練 防犯訓練

その他

- ・全園児避難訓練 (火災) …月1回
(地震・津波・SIDS・水難事故・痙攣など) … いずれか月1回
- ・消防士の指導による避難訓練と消火訓練 … 年1回
- ・防犯訓練 (警察の方による、不審者侵入による防犯訓練) … 年1回
(保育者が不審者になり、園全体で防犯訓練) … 年4回

6. 《保健衛生報告》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児5月・11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	6月・11月 年2回 (4, 5歳児)
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児眼科健診	6月 年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿・ぎょう虫検査	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・全職員検便	(株)有研により月1回以上
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップ清掃	乾商事により年5回

7. 《平成30年度在籍児一覧表》()は1号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	7	19	18	20(3)	19(3)	20(3)	103(9)	113%
5月	7	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	101(9)	111%
6月	7	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	101(9)	111%
7月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
8月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
9月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
10月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
11月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
12月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
1月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
2月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
3月	9	18	18	20(3)	18(3)	20(3)	103(9)	113%
合計	102	217	216	240(36)	217(36)	240(36)	1232(108)	113%

8. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

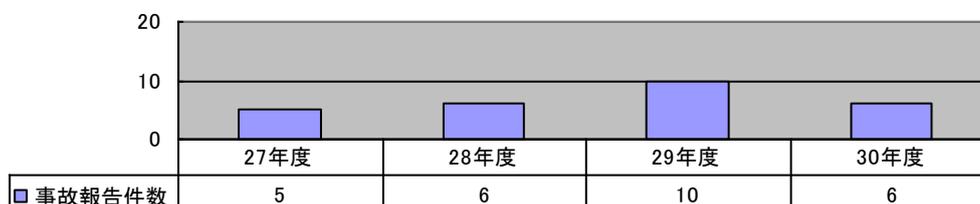
※医師、看護師が常駐していないため、診察を受け医師の判断を仰いだ。

平成29年度					平成30年度				
報告 件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置	報告 件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置
	1263件	10件	1154件	99件		1,426件	6件	1,285件	135件

28年度(合計件数882件、事故6件、ドキドキ824件、処置52件)

※救急箱の用品を使った際に記入する救急箱用紙の集計も行っている。

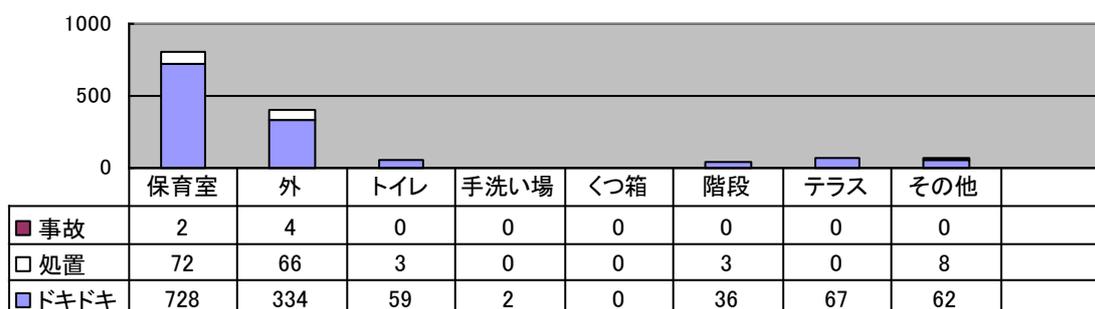
ドキドキの事故用とは異なり、一人で怪我をした際や園以外でケガをした箇所の手当て(例:絆創膏の貼り替え、虫さされ、さかむけ等)を記入する。



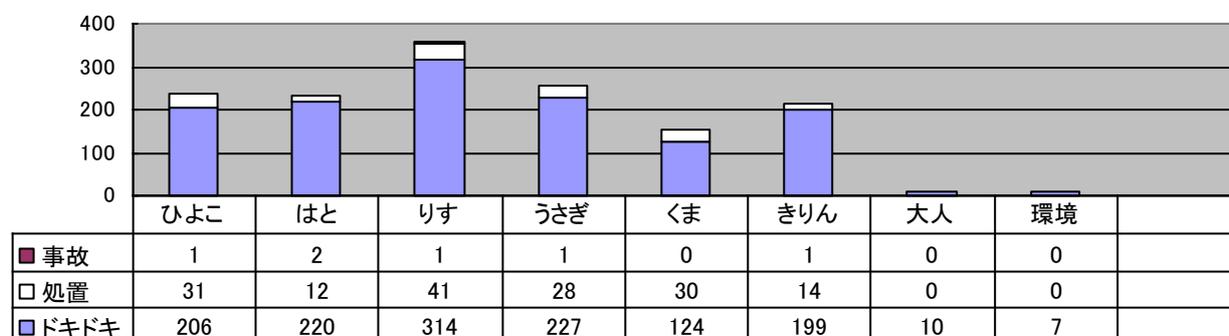
①月別発生件数



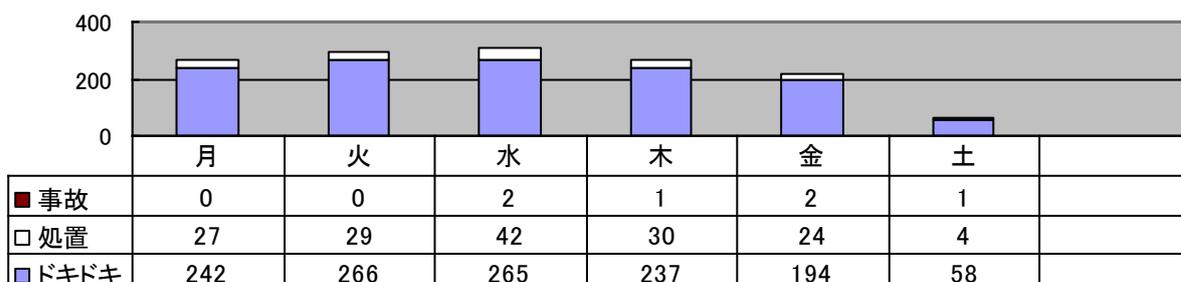
②発生場所別件数



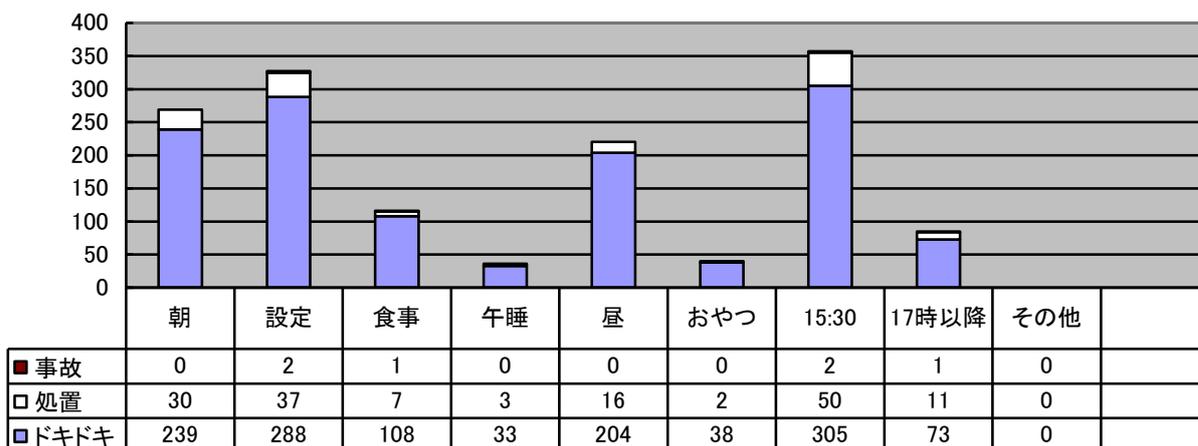
③発生クラス別件数



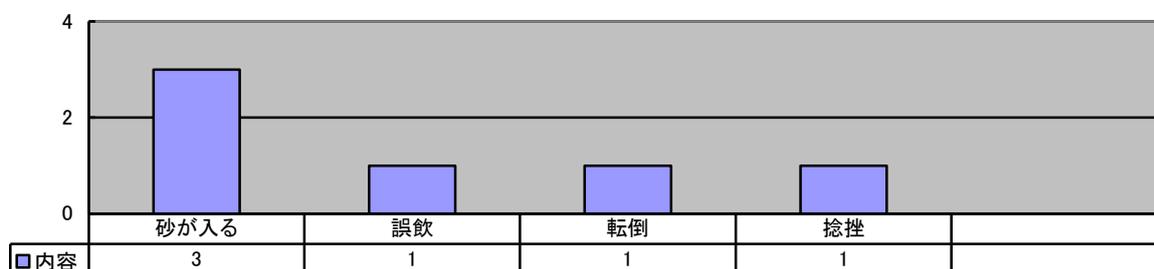
④曜日別件数



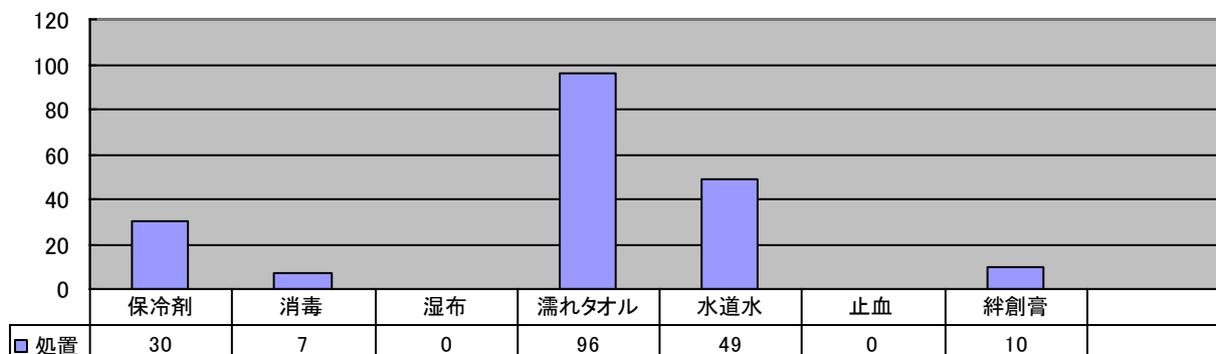
⑤時間帯別件数



⑥事故発生内容



⑦処置件数



⑧まとめ

年々ドキドキ件数が多く提出されるようになり、大きな事故の発生防止に繋がってきている。今年度の事故で砂が目や耳に入ることが続いたので、同じことは事前に防げるように事故に対する認識を深めていく。これからも全職員で危機管理意識を持ち、職員一人一人が子どもの安全を確保するため、ドキドキを数多く提出することで、情報を共有し、職員全体で把握していき大きな事故を防ぐよう努めたい。

9. << 苦情・相談結果報告 >>

○担任への依頼… 1件

- ・降園時、オムツ交換は済ませたと聞いていたので、帰る途中だと予想されるが、家に帰ってオムツを見ると便がついていてお尻が赤くなっていた。入園時から肌が弱く、心配されていたので気を付けてはいたが、行き届いていなかったことに謝罪した。

母親から尿の時、便の時のお尻ナップの使用量と丁寧に優しく拭くことを依頼された。依頼に関わらず本児が気持ちよく過ごせるために、職員一人一人が気を付けて接していくようにした。その後は問題なく過ごしていくことができた。

○話を聞いてほしい … 1件

・降園後母親から電話を受けた。

保育料を渡そうと担任を探している間に他の職員から保育料の提出するように上から目線で言われた。また、たまたま借りていたクラス帽をずっと使っているように言われたことが、心外だったとの話だった。母親の話詳しく聞き、職員の対応の仕方で嫌な思いをさせてしまったことをお詫びした。朝夕は担任がいないこともあるので、他の職員が対応させてもらうことがあることもお伝えした。

対応した職員からも詳しく話を聞き取り、どの点に問題があったのか話し合った。他の職員ともミーティングで話し合い、保護者対応には言葉遣いに気を付けること、特に日頃密に関係がもてていない保護者には丁寧に対応することを周知徹底した。

○まとめ

今回は、母親の思いをもっと職員が真摯に受け取り、気持ちに寄り添う必要があったと思う。保護者の思いに寄り添い、信頼関係を作ると共に、丁寧にに関わり対応していきたい。

10. 《総括》

就労状況が以前は、パート勤務で保育時間が短い家庭が多くあったり、母子家庭も見られたが、今年度は両親とも常勤での就労が多く、保育時間も長くなってきた。延長保育も毎日ではないが20時までを希望する方も2～3名でてきている。

これまでよりも教育に対する関心も大きくなりつつあるように感じている。外国にルーツを持つ子ども（中国・ベトナム・韓国・ニュージーランド）も全体で16人（約1割）になっている。言葉の壁があり、話が少しでも長くなると聞くことが難しいので、個々にコミュニケーションをとって信頼関係を作っていきたい。

要支援家庭に対しては引き続き区役所、こども家庭センターとも連携を図り、対応することで、子どもを守ることができた。

昨年に引き続き、家庭によって支援の内容（1号・2号・3号・すこやか・要支援等）は様々であるが、子どもが安心して笑顔ですごせるよう見守り、対応していきたい。これからも、子どもが持つ興味や意欲、主体性を大切に育てるために、研修で得たことを発表して共有していく。そして、ミーティングや職員会議において話し合い、職員の共通理解のもと、一人一人と丁寧に関わりをもっていくようにする。保護者や地域と、共に協力して子どもたちを守り、育てていきたい。